



榊原病院 Monthly

Vol.37 2019.October

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院長就任。

日本司法精神医学会理事。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数

176床

- ・ 精神科病棟 158床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 認知症ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

《第1回難治性精神疾患シンポジウムを開催して》

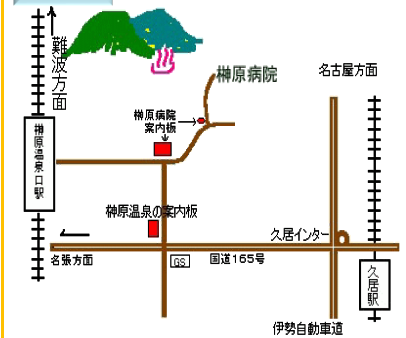
南2病棟看護師長 高橋 久美子

当院では、平成28年度から三重県難治性精神疾患地域連携ネットワーク事業の事務局として、難治性の精神疾患を有する患者様がクロザピン（※治療抵抗性の統合失調症を治療する非定型抗精神病薬）を使用した専門的治療を安全に受けることのできる地域連携体制の構築を目的とし、様々な情報発信を行いながら活動してきました。しかし、現在に至るまで県内でクロザピンを使用している施設は限定的であり、十分な結果に繋がっているとは言い難い状況でした。

このような現状から、本来クロザピンを使用することで治療の幅を広げることができる患者様へ必要な治療が提供できていないという、もどかしさを感じると同時に、正しい情報や知識を普及することで、当院に限らず、県内において安全で質の高い治療を広めていきたいと強く思い至ったことから、この度、難治性精神疾患研究会を発足し、シンポジウムを開催するという一歩を踏み出すこととなりました。

今回のシンポジウムでは、全国でクロザピン治療を先進的に実践している施設からシンポジストをお招きし、当初目的としていた三重県内での普及という枠組みを超え、全国各地から多数の方々のご参加をいただくことができました。そして、皆様から活発なご意見をいただき、予想を上回るクロザピン治療への関心の高さと、全国にはクロザピン治療を必要としている患者様が多数存在しているにも関わらず、システムや体制が整わないなどの理由からクロザピン治療をあきらめている施設があるという現状などが明らかになり、今後の課題も再認識することができました。

シンポジウムが終了した現在、今までクロザピンを導入していなかった施設からもお問い合わせを多数いただき、随時ご紹介患者様へのクロザピン新規導入を行っております。また、出張講演依頼も増えてきており、県内のみならず県外への出張講演も行っております。自分達が踏み出した一歩に大きな反響をいただけたことに感謝しながら、このネットワークを絶やすことなく、一人でも多くの難治性精神疾患を持つ患者様に必要な医療が提供できるよう今後もさらなる向上を目指していきたくと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス（榊原温泉口駅行）にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター（伊勢自動車道）より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス（約25分）



トピックス

行事・出来ごと

- 令和元年9月11日、難治性精神疾患シンポジウム開催
- 令和元年10月25日、第10回三重精神科医療フォーラム参加予定
- 令和元年11月10日、市民公開講座（講演テーマ「認知症の予防」）開催予定

教育・研修

- 令和元年9月20日、三重県内医療観察法ネットワーク研修会開催
- 令和元年10月23日、三重県難治性精神疾患ネットワーク研修会・症例検討会(YOU-C-C)開催予定
- 令和元年11月26日～29日、令和元年度第2回CVPPP指導者養成研修会開催予定

市民公開講座
QRコード



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和元年9月までに全症例は84例となりました。新規導入は7月0例、8月2例、9月1例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

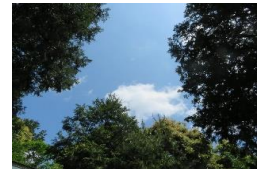
思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは毎週、木曜日を除く週4日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。榊原地区の自然を楽しむ町内散歩や、スポーツ、音楽、アートなど様々な楽しみごとを行います。昼食づくりやお菓子作り、喫茶の会など、実用的な体験もできます。参加者で協力しあって、コミュニケーションの練習も、がんばっています。

参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。



（左）秋のイベント、かかし作りです。写真は以前の作品ですが今年も榊原地区秋の収穫祭に出展します。
（右）金比羅山の空。登山プログラムでは病院近くの山に登ります。急こう配を登りきると、きれいな青空と気持ちのよい風が待っています。

栄養コラム



《75歳以上で要注意！筋肉の合成と分解のバランスが崩れ筋肉量減少に繋がりがやすい》

私たちの筋肉、特に下肢は20歳代からすでに減少し、80歳を過ぎると約30～40%失われると言われており、加齢に伴う筋肉の減少を「サルコペニア」といいます。現に75歳以上の後期高齢者で急増し、80歳以上では2人に1人が該当しているとの報告もあります。筋肉を形成する筋たんぱくは合成と分解を繰り返していますが、高齢になるとたんぱく質を合成するからだの刺激に対する反応が鈍くなり、分解と合成のバランスが崩れることで筋肉減少につながります。そのため、合成と分解を意識したたんぱく質の摂取の仕方が重要となります。（次号に続く）

健康睡眠12ヶ条 第十条 良い睡眠習慣をつくるために

◎眠くなってから寢床に入り、起きる時間は遅らせない

・眠くなってから寢床につきまよう

寢室は寢るところ！と認識できるようにしましょう。寢床でTVを見たり、食事をしないようにしましょう。

・20分以上眠れない場合、一度寢床から離れまよう

眠ろうとする意欲込みが、かえって頭を冴えさせて寢つきを悪くします。

・眠りが浅い時は、むしろ積極的に遅寝・早起き

眠れなくても、毎日同じ時間に起きるようにしましょう。

昼寝は30分を越えないようにしましょう。

